

先輩からのアドバイス

『本を読む本』的読書の仕方

読書には、「娯楽のため読書」、「情報を得るための読書」、「理解を深めるための読書」の3種類があると知っていましたか？ M.J. アドラーが『本を読む本』（講談社学術文庫、1997年）の中で上のように分類しています。さらにアドラーは、読書のレベルについて、①初級読書、②点検読書、③分析読書、④シントピカル読書の4つに分類しています。紙幅の都合上、このコラムはみなさんのレポート・論文執筆に関係が深い「点検読書」と「分析読書」について紹介します。

点検読書とは、限られた時間内で一冊の本からできる限りのものを引き出す技術です。

主な方法として、①表題、序文を見る、②本の構造を知るために目次を調べる、③索引を調べる（あれば）、④その本の要と思われるいくつかの章を読む（特に序章と終章、章の最後）となります。時間の節約になるだけでなく、本の理解を深める下地にもなり、本の要約が簡単に行えます。また、実際に書店などで本を手にとって「点検読書」を行うことで、その本が今の自分に必要な本か否かがわかります。

分析読書には、大きくわけて2つのステップがあります。まず重要なのは、キーワードや命題を見つけ出し、著者が言いたいことが何であるかを完全に把握することです。特に筆者が議論を行う上で使用しているキーワード（概念や公式）の意味は必ず理解しておくことが重要です。

そして、「分析読書」では、読んだ本を「批評」しなければなりません。ここでいう「批評」とは「正しい批評」でなければいけません。「正しい批評」とは、読者は、どういう点で著者が記述不足なのか、事実や実験結果に誤りがあるか、非論理的であるのかを明確に指摘し、その理由を述べて反論を立証しなくてはなりません。

この「分析読書」を積み重ねることによって、卒業論文や修士論文の先行研究批評が書けるようになるのです。

（人文社会科学研究科 院生）